



報道発表資料の配付日時 7月6日（水） 9時00分

発表項目 （行事名）	令和4年度 「第61回全国林業経営推奨行事」 農林水産大臣賞 受賞について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>標記行事において、白老町の桔梗原和夫氏が「農林水産大臣賞」を受賞されましたのでお知らせします。</p> <p>1 全国林業経営推奨行事の概要</p> <p>林業奨励を目的に、昭和37年度から農林水産祭参加行事として実施。森林の適正な管理、林業の技術・経営の改善に努め、森林の有する多面的機能の発揮及び林業の持続的かつ健全な発展に寄与している森林所有者等を表彰。北海道からは、知事の推薦を受けた5名が参加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主催：公益社団法人 大日本山林会 ・後援：林野庁 ・受賞の種類：農林水産大臣賞（8個人）、林野庁長官賞（9個人・7団体） <p>※令和4年度は、大日本山林会会長賞は受賞者なし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表彰式：11月、三会堂ビル石垣記念ホール（東京都港区）で開催予定 <p>2 受賞者</p> <p>桔梗原 和夫（ききょうはら かずお）氏 72歳 白老町虎杖浜</p> <p>3 功績</p> <p>白老町で50年以上にわたり原木シイタケの販売・生産を営む傍ら、約24haの山林経営を行う林家。山林はシイタケ原木の確保が目的のミズナラ人工林が主体で、施業は委託のほか下刈等は積極的に自家労働で行っており、エゾシカ食害対策にも力を入れる。長きにわたり森林組合長を務めて得た技術と知識、豊富な経験を活かし、模範的な林業経営を実践し、地域の森林整備やシイタケ栽培・林業技術の普及に貢献している。平成26年度、北海道指導林家に認定。</p>		
参考	令和4年度受賞者概要		

報道（取材）に 当たってのお願い	○地域の模範となる林業経営を実践している桔梗原和夫氏の栄誉を広く道民に周知していただきたく、積極的な報道をお願いします。		
他のクラブ との関係	同時配付	（場所）	
	同時レク		

担当（連絡先）	胆振総合振興局森林室普及課（担当者：課長 坂下）TEL：0144-72-5123
---------	--

令和4年度 全国林業経営推奨行事 受賞者の概要

(別紙)

区分	氏名／名称	都道府県	市町村	概要
農 林 水 産 大 臣 賞	ふじた やすのり 藤田 靖則	北海道	石狩市	祖父の代からの知識、技術、経験を受け継ぎ、森林資源の循環を理念とする林業経営を实践。植栽によって森林の再生を図る活動団体「四季彩の社をつくる会」代表として地域に貢献する。
	ききょうはら かずお 桔梗原 和夫	北海道	白老郡白老町	50年以上にわたって原木シイタケの販売・生産を営む傍ら、24haの山林経営を行っている。長く森林組合長を務めて得た技術と知識を生かし、地域の森林整備を推進している。
	はすみ のぶたか 荷見 信孝	茨城県	常陸太田市	篤林家の父から林業経営を引き継いで15年。長伐期の優良大径材を生産する一方で、毎年1haをモザイク皆伐・再造林することで森林の循環利用を目指している。344m/haの高密度路網を整備。
	いのうえ じゅんじ 井上 淳治	埼玉県	飯能市	高品質な西川材を代々生産する林家で、古い施業履歴は天保7年まで遡れる。平成9年から木工体験工房を林業と複合経営する。元全国林業研究グループ連絡協議会副会長。現埼玉県森林協会会長。
	かとう かずあき 加藤 一昭	岐阜県	加茂郡白川町	ヒノキを主体とした146haの森林を所有。年平均16haの施業を行う中で、高密度路網化と早期枝打ちによる無節柱材の生産を目指す。白川町林業担い手育成協議会を立ち上げ、副会長に就任。
	わたなべ さだもと 渡邊 定元	静岡県	富士宮市	農林水産省職員、大学教授を経て平成6年に林業経営会社を設立。研究者として培った理論や技術を林業者として実践することで、林業再生の道を模索し続ける。国・地方の公職を数多く歴任。
	しみず やすし 清水 泰	鳥取県	西伯郡大山町	祖父・父の代から貴重な「大山アカマツ」の生産者として、付加価値の高い優良材を生産している。恒久的に使用可能な作業道の開設と維持管理に努め、路網密度は347m/haに達する。
	なかがわ つねじろう 中川 式司郎	鹿児島県	志布志市	原木しいたけ生産を中心とした林業経営者。長年、日本椎茸農業協同組合連合会理事、鹿児島県椎茸農業協同組合長として活躍するとともに、県の指導林家やしいたけ相談員として地域にも貢献。
林 野 庁 長 官 賞	たまださんぎよかぶしがかいしゃ 玉田産業株式会社	北海道	岩見沢市	昭和25年から約70年にわたって地域の森づくりに貢献。離農する林家から森林を積極的に購入し、再造林と適切な保育管理に努めている。森林環境部の社員13名の平均年齢は34歳。
	まきの ひとし 牧野 仁		二海郡八雲町	代々引き継いできた山林を守り、地域に還元することを目標に林業経営を行う。2019年に10haの皆伐を行い、すべて再造林するなど資源の保続にも努める。現在、北海道森林組合連合会副会長。
	ほっかいしよくさんかぶしがかいしゃ 北海殖産株式会社 ほっかいどう しゅつちやうしょ 北海道 出張所		上磯郡木古内町	前身の前田家林業所の森林を永続管理するために昭和22年に設立。平成2年に造林と育林の指針を定め、それに沿った施業を行っている。令和元年、社有林のすべてがSGECの森林認証を受けた。
	よしの ごうちゆう 吉野郷中	秋田県	横手市	横手市増田町吉野地区の住民によって、共有林管理を目的に設立。構成員は49名。人工林は標準伐期齢+10年の伐期を目標に、除伐、枝打ち、間伐を実施して良質材生産を目指している。
	たかはらりんさんきぎよくみあい 高原林産企業組合	栃木県	矢板市	平成23年度の本行事で農林水産大臣賞を受賞。その当時よりも素材生産量と事業収入を2・5倍に増加させた。女性だけの伐採・搬出班を編成し、高性能林業機械による施業を行っている。
	くろさわ しげお 黒澤 重雄	群馬県	多野郡神流町	父から引き継いだ森林37.5haの経営を行っている。施業の集約化に積極的に取り組み、所有林周辺の森林所有者へ働きかけ、平成27年度に「御鉾地区」において共同の森林経営計画を策定した。
	なかじま くにはこ 中島 邦彦	東京都	青梅市	116haの山林を所有。皆伐を主体とする林業から間伐を施業の中心にすることで林内を良好な環境に保つ森林管理を進めた。また東京都森林組合専務理事として、都の森林再生事業に貢献した。
	ぬかじ せいさんしんりんくみあい 糠地生産森林組合	長野県	小諸市	周辺の個人有林を取り込んで団地化し、森林整備を進めてきた。現在はさらに地域とのかかわりを重視して、「ぬかじ憩いの森」づくりに着手し、チョウの棲む里山づくりを目指している。
	つくでざいさんく 作手財産区	愛知県	新城市	平成17年に合併した新城市で同年に設立。新城市作手地区を中心に310haの森林を所有する。伐期を過ぎた林分を長伐期大径材生産に移行するために、保育間伐や列状間伐などの施業を行っている。
	いのまた せいいち 猪俣 誠一	新潟県	東蒲原郡阿賀町	父から山林を譲り受け、会社勤めとの二足のわらじで林業に従事。30年にわたって林業士、指導林家としても活動。また長年、阿賀町町会議員として地域に貢献。現在、麦生野生産森林組合長。
	ろくた としお 六田 敏夫	富山県	氷見市	林業、特用林産、農業を複合経営。特に原木しいたけ生産では、生産量と品質の良さから県内のリーダー的存在である。また氏のスギ林は地域特産の「ボカスギ」育林の優良事例となっている。
	かぶしがかいしゃしらみねさんぎよ 株式会社白峰産業	石川県	白山市	14団地で約1700haの経営計画を作成し、搬出間伐をメインに施業を行っている。近年は管理できなくなった山林を購入し、皆伐・再造林を実施。現場職員全員に高性能機械の操作を習得させている。
	たかみつ ともゆき 高光 知幸	山口県	周南市	昭和52年から農林業に従事。以来、知識や技術の習得・研鑽に励んだことにより、45haの山林を一人で管理し、かつ確実な収益を上げている。指導林業士として技術の指導・普及にも努めている。
あべ むつき 安部 六月	愛媛県	西条市	スギ・ヒノキにこだわらない健康な森林の造成に努めている。多様な森林の造成のために今なお研究と研鑽に励んでおり、中でも広葉樹造林と通直な広葉樹を育てる技術は特筆に値する。	
いちふじ たいすけ 一藤 泰助	熊本県	葦北郡芦北町	大径良質材を生み出す長伐期の森づくりを目標に、10年ごとの搬出間伐で収益を得る経営を実現。また高い向学心から、森林機能を保持しつつも丈夫で壊れない作業道の開設技術を習得した。	
やまなか まこと 山中 誠	宮崎県	東臼杵郡椎葉村	56haの所有林では、スギ・ヒノキを中心に環境に配慮した持続可能な林業経営を行っている。一方、30歳代後半からはしいたけ栽培にも力を注ぎ、現在は県内屈指の生産者として活躍している。	